

清宮 質文展

生誕100年
Seimiya Naobumi
1917-1991

Ⅱ期

限りなく深く澄んだ 詩情の世界

—中原中也とのコラボレーション アトリエ部再現—

昨年、第1期として、版画を中心に87点ご覧いただきました。今回は、ガラス絵、水彩、モノタイプ等をはじめ、一点ものが半分近くを占め、初めてご覧いただける作品も多いことと思います。

清宮は、芸術家を志してから、自分の想いを形として表現出来ないもどかしい状態で年を重ねていき、やっと木版画を主とした作家として活動を始めるのが、1953年(36歳)頃のことでした。そして同時期に水彩画、ガラス絵の制作も始めています。また、少しの妥協も許さない清宮は、版画家ではありますが、摺りを他人に依頼したことはなく、すべて自分で行いました。

一点ごとに表情の異なった作品が生みだされることも度々あり、エディション通りの枚数が摺られた作品は少なく、1~2点しか摺られなかった作品もかなり見つけられます。

清宮の世界は、「的確な言葉が見つからない、言葉で表現しきれない、言わば言葉を越えた世界」です。

『自由にさまよい歩ける精神的な世界が欲しい。私は、私の限りなく深い澄んだ空気を自分の絵の中に求めているのですが—ただそれだけを求めているのです—。』

(1972年 南天子画廊大阪店個展の案内状より)

清宮は、急速に変化していく時代の流れの中で、ひたすら自分の内面の表現に努めていました。無垢の魂が発する幽(ゆず)かな憂愁を、研ぎ澄まされたリリズムでおおむ深く澄んだ清宮の世界。透明感を湛えて静かに語りかけてくる「人間への郷愁」が、皆様を遠い記憶の世界に誘います。



The exhibition of Seimiya Naobumi

入日 1972年 木版 横須賀美術館 所蔵

2018年 4月21日(土) ▶ 6月3日(日)

会場 / 瀬戸内市立美術館 3階・4階展示室

開館時間 / 9:00~17:00(入館は16:30まで) 休館日 / 毎週月曜日(ただし、4月30日は開館)

観覧料 / 一般500円、割引400円(団体(20名以上)または65歳以上)、中学生以下無料

主催 / 瀬戸内市立美術館

後援 / 岡山県、岡山県教育委員会、山陽新聞社、朝日新聞岡山総局、毎日新聞岡山支局、読売新聞岡山支局、産経新聞岡山支局、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、oniビジョン、FM岡山、FMくらしき、レディオオモモ、公益社団法人岡山県文化連盟、岡山県郷土文化財団

特別協力 / 横須賀美術館

協力 / 中原中也記念館、有限会社 玲風書房、みるを楽しむ!アートナビ岡山

ワークショップ ● 「ガラス絵を描こう」 4月29日(日) 13時30分~(約1時間)

講師: 山本佳子(一水会会員・日展会友) <参加費>要観覧料 <要予約>TEL 0869-34-3130 <定員>約20名

ギャラリートーク ● 隔週日曜日(4/22・5/6・5/20・6/3) 13時30分~(約30分間) <参加費>要観覧料 <予約>不要

瀬戸内市立美術館
Setouchi City Museum of Art

〒701-4302 岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓4911
TEL 0869-34-3130 FAX 0869-34-3438
URL <http://www.city.setouchi.lg.jp/museum/>